

「滋賀県スポーツ推進計画」に基づく施策の実施状況について

(平成 29 年度実績)

滋賀県スポーツ推進条例第 9 条の規定に基づき、県議会 9 月定例会議の報告事項として、説明書を提出します。

※滋賀県スポーツ推進条例第 9 条（実施状況の報告等）

県は、毎年度、スポーツ推進計画に基づく施策に係る実施状況を議会に報告するとともに、公表しなければならない。

第 1 第 1 期滋賀県スポーツ推進計画の概要

目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現

基本方針

- 1 自ら行うスポーツ活動の充実
- 2 次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実
- 3 スポーツ環境の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- 5 滋賀の特性を活かしたスポーツの推進

計画期間：平成 25 年度～平成 29 年度（5 年間）

第 2 施策の実施状況のまとめ

【基本方針 1】自ら行うスポーツ活動の充実

【主な施策の実施状況】

■生涯スポーツ推進事業

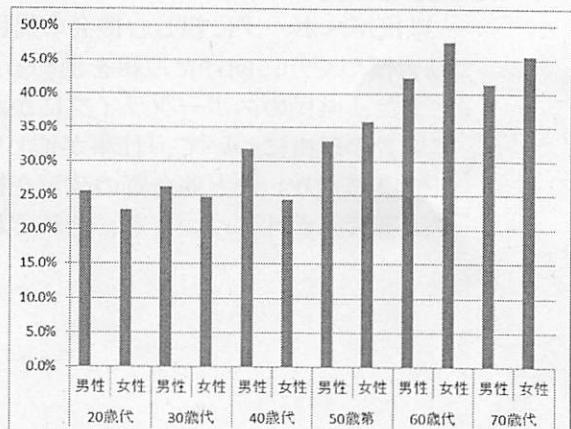
○ 県民の誰もが参加できる「滋賀県民総スポーツの祭典」を開催し、33,693 人が参加した。

【評価】

県民のスポーツに参画する機運の醸成に資するとともに、健康づくりや地域づくりにつなげることができた。

【課題】

より一層、関係競技団体等と連携し、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会への機運醸成を図る必要がある。



出典：県民のスポーツライフにかかわるスポーツ実施状況調査

■スポーツボランティア支援事業

- スポーツボランティア活動の充実を図るため、啓発物品の作成・配布に加え、スポーツイベントの広報掲載やボランティア講習会を開催した。

【評価】

広報啓発やスポーツイベントの開催と連動した募集等により、新たに 247 人の登録者の増加につながり、合計 581 人の登録となった。

【課題】

ワールドマスターズゲームズ 2021 関西等の開催を見据え、実践的な活動機会を有するスポーツクラブ等と連携し、スポーツボランティア人材の確保、研修を通じた資質向上、ボランティア活動の参画機会の充実を図る必要がある。



(びわ湖レイクサイドマラソン)

■障害者スポーツ大会開催事業

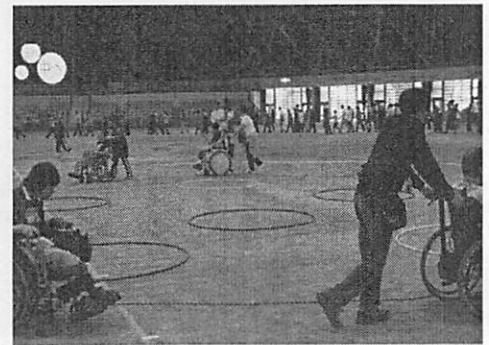
- 平成 29 年 5 月から 11 月に滋賀県障害者スポーツ大会を、7 月に知的障害者（児）を対象としたスペシャルスポーツカーニバルを開催し、1,468 人が参加した。

【評価】

県内の障害のある人に対して社会参加の機会の提供につなげるとともに、全国大会の選手選考も兼ねており、競技力の観点からも重要な大会となっている。

【課題】

大会参加者の固定化、高齢化の傾向にあり、新規参加者の拡充に取り組む必要がある。



スペシャルスポーツカーニバル

(はいれ はいれ 輪の中へ)

【指標の状況】

指 標	策定時	目標 (H29)	進捗状況	達成率
成人の週 1 回以上のスポーツ実施率	42.2% (H23)	国の実施率を上回る	36.0%(H28) (国) 51.5%	—

出典：県民のスポーツライフにかかわるスポーツ実施状況調査

【今後の対応】

県民がスポーツに親しむ機会の提供や情報提供を行うとともに、気軽に取り組める運動習慣づくりに向けた取組を進める。

また、県民のスポーツライフにかかわるスポーツ実施状況調査によると、スポーツ未実施者の理由について、「仕事が忙しい」「機会がないから」という回答が多いことから、「健康づくり」など他分野の政策を視野に入れた取組との連携を図るとともに、中高年や障害者、女性についても、それぞれの課題や状況に応じた取組を進める。

【基本方針2】次代を担う子どもの運動・スポーツ活動の充実

【主な施策の実施状況】

■子どもの体力向上推進事業

○ 運動の習慣化を図るため、県内すべての公立小学校で体力向上策である「健やかタイム」に取り組んだ。また、各小学校において「子どもを運動遊び好きにするための6つの取組（体力向上委員会の設置、体力向上プランの推進、DVDの活用、チャレンジランキングの実施、新体カテスト全学年実施、認定証（記録証）の配付）」を継続して実践した。

【評価】

小学校男女の体力合計点（平成20年度調査開始）が男女とも過去最高値となるなど、体力向上が図られた。中学生は男女とも全国平均を上回った。

【課題】

「健やかタイム」等を活用し、学校の実情に合った取組を行っていく必要がある。

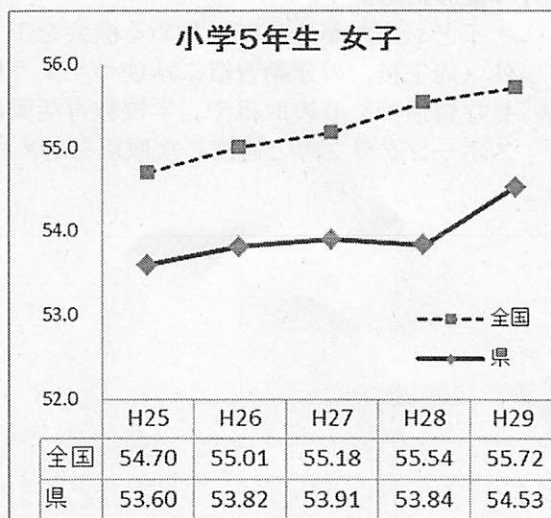
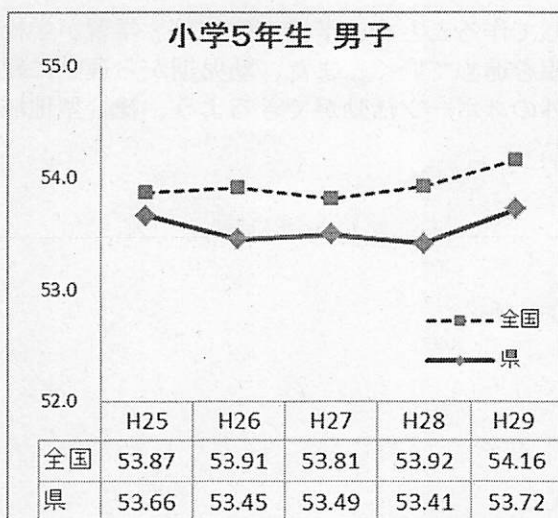


子どもの体力向上支援プログラム

「げんきな湖っ子」DVDシリーズ



各小学校で取り組んでいる「健やかタイム」



子どもの体力・運動能力テストの体力合計点（本県と全国の比較）

出典：「児童生徒の体力・運動能力調査等報告書」

■運動部活動の工夫・改善支援事業

○ 外部指導者を県内中学校、高等学校の運動部活動に派遣した。（平成29年度 中学校：16部（14校） 高校：14部（11校））

【評価】

運動部における専門的な指導等の課題解消を図るとともに、実践研究校の指導研修会を通じて指導者の技能向上に取り組むことができた。

【課題】

学校組織全体で指導体制を構築するため、引き続き、指導に不安を抱える顧問の支援と指導力の向上に取り組む必要がある。

【指標の状況】

指 標	策定時	目標 (H29)	進捗状況	達成率
1日の運動・スポーツ実施時間が1時間以上の割合（授業を除く） 【小学5年生】	男 68.3% ※（全国）72.1% 女 45.3% ※（全国）48.2% (H22)	全国平均を上回る	男 597.9 分 ※(全国)615.8 分 女 349.4 分 ※(全国)374.7 分	—

出典：「児童生徒の体力・運動能力調査等報告書」

※全国調査の質問項目が平成26年度から変更され、進捗状況を把握することができないため、1週間の運動・スポーツ実施時間について「全国」と「本県」の比較で示している。

指 標	策定時	目標 (H29)	進捗状況	達成率
子どもの体力・運動能力テストの体力合計点【小学5年生】	男 53.19 点 ※(全国)54.36 点 女 52.56 点 ※(全国)54.89 点 (H22)	全国平均を上回る	男 53.72 点 ※(全国)54.16 点 女 54.53 点 ※(全国)55.72 点	—

出典：「児童生徒の体力・運動能力調査等報告書」

【今後の対応】

子どもたちが運動に親しめる機会を工夫して作ることや、学校での体験・学習が学校外（帰宅後）の運動習慣に結びつくよう取組を進めていく。また、幼児期から運動に親しむ習慣づくりの取組や、学校教育活動以外のスポーツ活動ができるよう、総合型地域スポーツクラブ等と連携した取組を進めます。

【基本方針3】スポーツ環境の充実

【主な施策の実施状況】

■国体に向けた競技力向上対策事業

- 滋賀県競技力向上基本計画に基づき競技力向上対策本部において、「選手の育成・強化」「指導体制の充実」「強化拠点の構築・環境の整備」を柱とした競技力向上事業に取り組んだ。

【評価】

第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」では、天皇杯順位39位（得点803.5点）、全国障害者スポーツ大会では、金メダル19個、大会新記録3つを記録した。

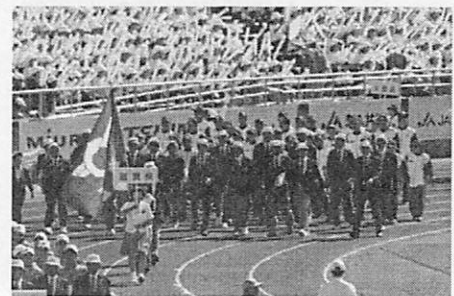
【課題】

目標である総合優勝（天皇杯順位1位）を目指すためには、少年種別の競技力向上、成年種別の更なる向上など、競技力の向上に努めていく必要がある。



レイキッズ選考会の風景

（次世代アスリート発掘プロジェクト）



第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」

■社会体育施設整備事業・（仮称）彦根総合運動公園整備事業

- 2024年の本県での国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催を見据え、新県立体育館整備、琵琶湖漕艇場再整備やプール整備に向けた取組を、また、（仮称）彦根総合運動公園の整備や敷地拡張に伴う用地買収に向けた地権者への説明、交渉等を行い、順次売買契約を締結した。

【評価】

新県立体育館整備についてはPFI方式による事業実施に向けた取組を、琵琶湖漕艇場再整備については基本計画の策定を行うとともに、プール整備については県立施設の代替機能を担う施設整備に取り組む意向の市町から、草津市を支援市に決定した。

（仮称）彦根総合運動公園の整備については、公園整備基本設計をとりまとめることができた。なお、敷地拡張に伴う用地買収については、地権者との交渉に時日を要し、計画どおり進まなかった。

【課題】

新県立体育館整備については、PFI方式による整備に向けた入札公告等や造成工事の実施に向けた必要な手続きを進める必要がある。

琵琶湖漕艇場再整備については、再整備工事に向けた調整を進める必要がある。また、プール整備については、草津市と財政支援の詳細等について調整を行いながら支援する必要がある。

（仮称）彦根総合運動公園の整備については、周辺住民の意見を聞くとともに、彦根市や競技団体と調整を図り、着実に業務を進めていく必要がある。また、敷地拡張に伴う用地買収については、彦根市と連携の上、地権者に丁寧な説明し、理解と協力を得ながら、用地買収および用地補償契約手続を進めていく必要がある。

【指標の状況】

指 標	策定時	目標(H29)	進捗状況	達成率
公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者数	2,388 人 (H24)	500 人以上 増加	2,558 人 (170 人増加)	34.0%

(公財) 滋賀県スポーツ協会調べ

指 標	策定時	目標(H29)	進捗状況	達成率
総合型クラブで指導する有資格スポーツ指導者数	271 人 (H24)	500 人 以上	263 人	—

(公財) 滋賀県スポーツ協会調べ

【今後の対応】

2024 年の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向け、指導者の確保、養成、資質向上、組織的な競技力の推進のため、指導者の養成や資質向上に取り組む。また、県立スポーツ施設の整備、維持管理を計画的に進めていく。

【基本方針4】スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

【主な施策の実施状況】

■しがスポーツの魅力総合発信事業

- しがスポーツ大使を24個人・5団体に委嘱し、しがスポーツ大使交流推進事業において23件の交流事業が実施された。子どもたちによる県内トップチームの試合観戦を支援するしがスポーツの子事業では、1,374人の小中学生の観戦実績があった。また、本県のスポーツに関する情報を発信するポータルサイト「しがスポーツナビ！」に137,719件のアクセスがあった。

【評価】

本県ゆかりのアスリート等と連携した取組により、スポーツの魅力を発信でき、「する、みる、支える」の各場面でのスポーツ活動につながる情報を多くの人に発信できた。

【課題】

「しがスポーツナビ！」では更に魅力あるコンテンツを配信するとともに、しがスポーツ大使交流事業などを通じ、県内のスポーツ機運を高める必要がある。

■東京オリンピック・パラリンピック

スポーツ交流創出事業

- ホストタウン登録を受けている大津市とデンマークを相手国としたボート競技を通じた交流、米原市とニュージーランドを相手国としたホッケー競技を通じた交流、守山市とトルコを相手国とした視覚障害者柔道・ゴールボール競技を通じた交流に取り組んだ。

【評価】

行政・競技団体・大学・経済団体等による連携体制である「ホストタウン滋賀交流推進実行委員会」を通じて、スポーツをはじめ文化等の交流事業に取り組むことができた。

【課題】

既登録のホストタウンではスポーツに留まらない幅広い交流事業を実施するとともに、新たなホストタウン登録を目指す必要がある。



ホッケー競技による交流



ゴールボール競技による交流

【指標の状況】

指 標	策定時	目標 (H29)	進捗状況	達成率
大学生が参画する総合型クラブ数	6 クラブ (H24)	20 クラブ 以上	12 クラブ	42.9%

(公財) 滋賀県スポーツ協会調べ

【今後の対応】

東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021 関西および2024年に本県で開催する国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会等のビッグスポーツイベントに向けたボランティアの育成をはじめ、本県のスポーツ振興を図るうえで様々な分野で大学や企業等との連携を一層進め、活力ある地域づくりにつなげる。

【基本方針5】滋賀の特性を活かしたスポーツの推進

【主な施策の実施状況】

■ビワイチジョギング・サイクルツーリング支援事業

○サイクルスタンドを新たに4か所設置し、合計42か所となった。

【評価】

「ビワイチ」にチャレンジする人を含めたサイクリストの利便性の向上を図り、本県の特性を活かしたスポーツ振興を図った。

【課題】

サイクルスタンドの数の増加を進め、さらなる利便性の向上を図り、県内でサイクリングを楽しむ人を増やしていく必要がある。



サイクルスタンド

■各種体育大会開催事業

○朝日レガッタ、びわ湖毎日マラソン大会、びわ湖レイクサイドマラソンなどの大会を開催した。

【評価】

各大会とも幅広い世代や県内外から多くの参加者があり、世代や地域を超えて交流することができた。

【課題】

各大会とも、より一層の参加者増や充実した大会とするため、開催内容等を工夫しながら取り組んでいく必要がある。



第73回びわ湖毎日マラソン

【指標の状況】

指 標	策定時	目標(H29)	進捗状況	達成率
特性を活かした市町のスポーツ推進に関する計画策定率	47.4% (9/19 市町)	100% (全市町)	78.9% (15/19 市町)	60.0%

滋賀県スポーツ局調べ

【今後の対応】

健康づくりなどを市町との連携を図りながら進めるために、スポーツ推進に関する計画未策定の市町に対し、引き続き策定に向けた働きかけを行う。